

周波数の国際協調利用促進事業 令和元年度 継続評価結果

案件名		実施期間	評価会での主なコメント	評価点
周波数の国際協調利用促進のための技術動向等調査及び国際展開戦略の検討	超伝導フィルター	H29-R01	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予定どおり事業が進捗していると判断できる。 ・ VLBI（超長基線電波干渉法）観測を通じての実証は、その達成が十分見込まれる。 ・ 対象相手国に留まらず、欧州なども含めて、対象を広くとりコンタクトしている。 ・ 他のシステム（レーダー等）への普及を是非進めていただきたい。 ・ ビジネスとの関係性、商業化への道筋がよくわからなかった。 ・ 本技術を電波天文以外に適用することについての研究にも期待する。 	4.2
気象・防災プラットフォーム技術の国際協調利用促進	気象レーダーシステム	H29-R02	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実証実験の実施に向けて重要ポイントとなる MOC（協力覚書）の締結が遅れていることは問題である。 ・ MOC の締結に遅れがみられるが、マレーシア側の都合であり、リカバリーの努力が認められる点を評価したい。 ・ 実施計画が MOC を前提にしている点に、やや懸念を有する。 ・ レーダーの製造、開発は順調であり、次年度の成果が期待される。 ・ 現地の気象庁（MMD）のみならず、もう少し幅広くユーザーとなり得る団体にアプローチすることを考えるべきである。 ・ MOC の締結延期で一年間の余裕ができたため、デモセミナー等を実施して導入への気運を高めると良い。 	4.0

	津波・海洋レーダーシステム	H30-R01	<ul style="list-style-type: none"> ・機器の製造は順調に見受けられ、またシステム上の工夫も加えられている。 ・装置開発やセミナー開催及び現地調整について、期待された進捗度は達成されていると認識できる。 ・総務省と BMKG（インドネシア気象気候地球物理庁）との MOC（協力覚書）が締結されないと機器が輸入できないという点に懸念を感じる。 ・機器としては優れたシステムであると思われるが、情報の利活用まで含めたトータルシステムとして運用できるよう調整いただきたい。 ・着実に実施しているが、他国・他地域への展開が今一つ明確でないため、残りの期間で検討していただきたい。 	4.4
空港交通システムの高度化技術の国際協調利用促進	滑走路異物検知レーダー（リニアセルレーダー）システム	H29-R01	<ul style="list-style-type: none"> ・順調に進捗していると判断できる。なお、それぞれの空港にカスタマイズすることが必要とのことで、今後の他国や他空港への展開についてそれをシステム的に行えるような仕組みが必要と感じる。 ・次年度の計画も成果が期待でき、スケジュールも十分である。 ・マレーシア側の対応もしっかりしており、順調に計画が進むと考えられる。 ・セミナー等の開催以外にできないことがないか、検討いただきたい。 ・総務省による三か年のプロジェクトの核として、現地当局との連携によるシステムの拡張等を視野に入れて、プロジェクト終了後も関わっていく方針とのことであり、評価できる 	4.5
	空港面探知レーダー（マルチラテレーション）システム	H29-R01	<ul style="list-style-type: none"> ・装置開発は予定どおり進捗していると判断できる。その他、人的交流やセミナー開催なども堅実に行われている。 ・現地側の作業が遅れなく進むか、懸念を感じる。 ・既に機器の製作がかなり進んでおり、予定の達成が期待される。一方でシステムの利点が見えにくかった。 ・次年度の実証実験が大変重要で、高い評価を得ることができることを期待したい。 ・現地調整が遅れが生じないことを願う。 ・事業実施後の関係継続を検討していただきたい。あるいは横展開なども検討願いたい。 	4.3

<p>高度道路交通システムの通信技術の国際協調利用促進</p>	<p>V2X (Vehicle-to-X: 車車間通信、路車間通信等) 技術を用いた安全運転支援システム</p>	<p>H30-R02</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画どおり適切に進んでいると認識する。 ・次年度のみならず、第三年度の見込みも明確に述べられており、堅実な計画の実施が期待できる。ただし、予定された計画は実施される可能性は高いと思われるが、プロジェクトの結果として構築した技術・システムが対象国で本当に使われるものになるかは、今後の活動にかかっていると看做されるところも大きいと考えられる。より一層の努力を期待したい。 ・各国で調整を行うのは、大変なことだと思われるが、多方面での調整が行われており、順調と思われる。 ・システムの導入に向けて、足の長いプロジェクトのように思われるため、継続的な取組みを期待したい。また同様の問題を抱える国は多いため、多くの国に展開できる成果となることを期待する。 ・今後各国での展開を考える場合、各国の交通関係機関の理解や、取組みが必要であり、関係する機関への働きかけ等も検討することが大事である。 	<p>4.5</p>
<p>地上デジタル放送及び4k・8k技術の国際協調利用促進</p>	<p>地上デジタル放送</p>	<p>H29-R01</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当初の計画通り進んでいるように見える。しかし、以前より取り組んでいて、進捗が見えない(例: フィリピン) の例など対策を考えるべきではないか。 ・前年度の実績を踏まえて適切な計画である。 ・計画した現地での作業は進めており、そのためには現地関係者との調整は必須であることから、必要レベルの関係構築は実現されているのだろうと推測できる。 ・具体的なシステムイメージが分かりづらい。特にモバイル機器対応が必要と思われるが、機器開発の戦略が不透明。現地メーカーや販売網などを巻き込んだセミナーなどが重要ではないか。 ・実施国へのフォローは必要。 	<p>4.1</p>
	<p>4k・8k 放送技術</p>	<p>H27-R01</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長期的に 4k、8k の優位性を示すことは必要。 ・全方向的なアピールは必要だが、どこをきっかけに普及を図るのか戦略が必要ではないか。 ・デモンストレーション実施国について、タイ以外に具体的な記述がない。 ・特に 8k 機器製作メーカーが、放送機器市場だけで 20% を超えるのは難しいのではないかと懸念。コンテンツ市場も含めた数字にしてはどうか。 ・技術の活用可能性のある分野が 8 つ挙げられているが、限られた予算をこの 8 つの分野のどこに重点的に投入するのかにつき、基本方針を定めたほうがいいのではないかと懸念。 	<p>3.6</p>